

宜 基 涉 第 23 号
平成 25 年 1 月 25 日

殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

普天間飛行場の固定化を許さず早期閉鎖・返還の実現について（要請）

日米両政府は、SACO 返還合意において、普天間飛行場の全面返還に合意したものの、未だそれが実現されず、危険性は放置されたままであり、市民の基地負担は、もはや限界であります。

そのような現状にもかかわらず、最近の普天間飛行場の返還をめぐって日本政府等や米国側からの「フテンマ固定化」発言には怒りを超え、悲しい思いさえあります。

日米両政府による普天間飛行場全面返還合意の原点はなにか。

それは、市街地のど真ん中にある普天間飛行場の危険性を除去し、基地負担を軽減するという明確な目的からでした。

戦後 68 年余、本土復帰から 41 年、全面返還合意からも 17 年。その間、常に航空機墜落の危険性や騒音被害に晒され、一番犠牲を強いられているのは、我々宜野湾市民です。

そのような状況にも拘わらず、普天間飛行場の危険性の除去について、最優先に取り組むべき当事者である国や米側から、よもや「フテンマ固定化」というような発言が出てくること自体が言語道断です。私は 9 万 5 千名余の市民の生命と財産を預かる市長として、宜野湾市民を代表し、普天間飛行場の固定化絶対阻止と早期閉鎖・返還を強く求めます。

普天間飛行場を一日も早く返還していただき、市全域の再編による安全で安心して暮らすことのできる街づくりを進めること。それこそが、長年苦しめられてきた宜野湾市民の願いであり、固定化だけは、絶対に認めることはできません。

貴殿におかれましては、これまで、普天間飛行場を抱えてきた宜野湾市民の長年の願いや想いを斟酌いただき、普天間飛行場を固定化させず、早期閉鎖・返還の実現に向け強力に取り組んで下さるようお願い申し上げます。